

ヒトエグサ養殖における葉体の生長

福島県水産試験場相馬支場

1 部門名

水産業—その他—ヒトエグサ

2 担当者

成田 薫

3 要旨

松川浦のヒトエグサ養殖における不漁の原因として、葉体の脱落や枯死、生長不良等の現象が震災前より度々発生している。これらの現象発生と推移を捕捉するため、漁業者が管理するヒトエグサ養殖ノリ網について定点観察を行った。得られた知見により漁期中の管理と葉体の生育状況を整理した。

- (1) 平成 27～28 年のヒトエグサ漁期に養殖漁場4地区でノリ網観察定点を設定し、隔週で観察と計測を行った。ヒトエグサのノリ網における被度、葉体の長さを測定し、管理状況について、網高さ、鳥避け囲いの有無を記録した。
- (2) ノリ網の管理は、漁期中に網を下げるものと一定の高さを保つものが見られた。いずれの地区も葉体の生長は前年を上回って順調に伸長したが、11～12 月末にかけて葉体の途中で切れて短縮する現象が複数の定点でみられた。被度は 80%以上を保ちながら推移し、1 月以降に再び葉体は伸長を続け、2 月中には概ね摘み取りが可能となった。
- (3) 観察期間を通じて各地区とも被度は良好な水準を保ち推移していることから、芽落ち現象は発生していないものと考えられる。摘み取り前の時期における葉体の短縮現象は、前年に引き続き観察されていることから、今後も注意が必要である。

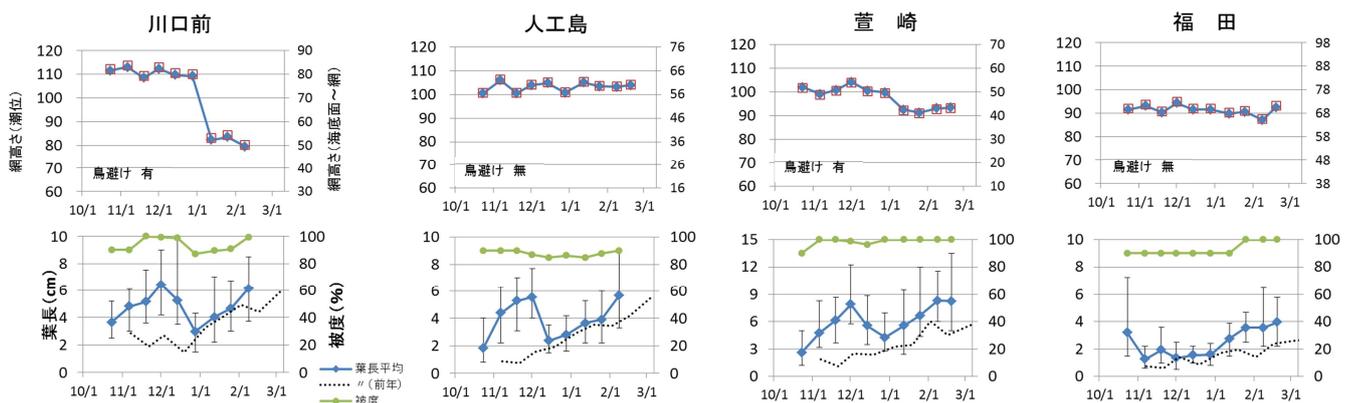


図1 各地区のノリ網の管理状況(上段)及びノリ網のヒトエグサ葉体による被度、生長(下段)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成26年度～27年度福島県水産試験場事業概要報告書